

地域と育む夏着物デザインプロジェクト

家政学部・宮武恵子 田中淑江

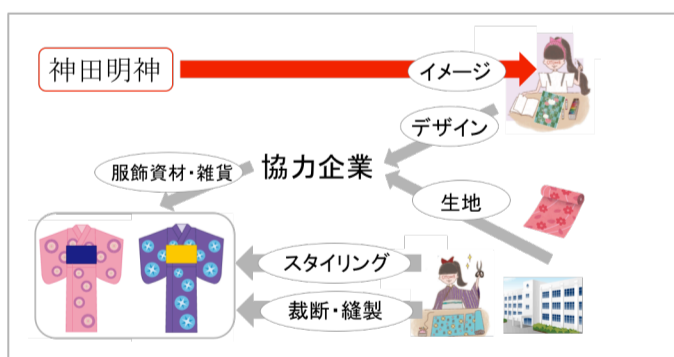
【目的】

2016年度より始まった浴衣スタイリングショーは、神田明神との連携協力協定に基づき、地域の文化や伝統を学んだ上で浴衣のデザイン・制作を基に開催してきた。本プロジェクトの目的は、地域社会の中で江戸の伝統や文化を伝承する役割を果たしてきた神田明神を若い層に伝達する。また制作した浴衣をツールとして、千代田区ブランドの浸透や日本文化や服飾文化の継承と発展も視野に入れている。産学連携企業に関しては、着物向け機能性素材の新たな活用方法を提案することや、自由で豊かな発想ができる女子大学生ならではの独創的なデザイン開発が期待できる。さらに、例えば若年層の和装離れなどの企業の有する複数の問題解決については、今までの取り組みの成果を検証すると、一定の貢献ができています。したがって本プロジェクトにおいても同様の貢献とさらには新しい発想も図れる。なお、浴衣に限定しない夏の季節に着装する和装の観点から、2019年度より夏着物ショーと名称をあらためた。

【プロジェクト内容・結果】

内容：従来のスタイリングショーと合わせて、学生が関連授業や特別講義で得た知識を基に、ヤング層をターゲットとした夏の着物について調査・分析をするプレゼンテーションを行う。関わるのは、3年生配当（通年科目）の「デザイン企画」履修者の内10名とする。女子大学生を対象として夏の着物に関する実態調査、浴衣の定義や市場における概念の推移、現在における夏着物の市場調査・分析を行う。また、デザインした夏着物の生地の特徴を提示し、市場に提案した場合に有効な企画であるかなどを考察する。

結果：2019年7月2日(火)18時半より、本学2号館2階コミュニケーションギャラリーにおいて、「2019夏着物スタイリングショー」を開催した。最初に、制作をした代表者2名から「和装文化の継承と振興に関する社会活動」を紹介し、次に「デザイン企画」を履修した学生代表が「女子大学生から見た夏着物への意識調査」について発表した。スタイリングショー（制作・モデル/全21スタイル）では、それぞれがデザインした着物に合わせて個性溢れるコーディネートを披露した。今年度は、着物と帯を同じ反物で制作するアンサンブル企画を発想し、新しい提案を試みた。ショーには江戸総鎮守 神田明神 権禰宜 鳥居 繁 様、協力企業の帝人フロンティア(株)・豊島(株)の方をはじめ、学内外から多くの方のご臨席を頂いた。また学内公認サークルのきもの着付け倶楽部 主催「浴衣DAY」の開催期間でもあり、浴衣姿の学生も参加した。当日取材をいただいた一般財団法人日本ファッション協会は、2002年6月より企画・運営しているファッション情報サイト（スタイルアリーナ:style-arena.jp）において、『正統・伝統を重んじながらもルールにとらわれない自分だけの「カタチ」の着物で、それぞれのファッションを楽しむことが、今後の着物の可能性を広げるのではないかと。着物は、これまでのイベント着から、これからは一種のワンピースのように捉え、それに合わせる洋服同様にコーディネートしてゆくことで未来が開ける。』と紹介している[1]。また学外の方からは、『今年度も新しいスタイルの提案があり良かった』『ショーの前のプレゼンテーションが効果的であった。』などの意見をいただいた。さらに見学した学生のアンケート調査においては、『新しい着装があり、素敵だった。』『自分も着用したいと思った。』など多くの前向きな結果を得ることができた。



プロジェクトのプロセス



学生デザインの事例



スタイリングの事例

【考察】

2016年より継続して実施してきた日本の伝統的な着物とファッションの視点で捉えた試みは、和装文化の継承と振興を目的とする社会連携活動を通して、アクティブ・ラーニング等の実践的な教育の一環となっている。本学学生はもとより、学外に広く告知することもでき、効果的な成果を得ることができた。この事例を基に、新しい実践的な教育に発展することを考えたい。